

# 大学入試センター試験， そのどこが悪いのか？

——センター試験批判の系譜と新テスト構想——

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授  
日本テスト学会 理事

倉元 直樹

# 本講演の構成

- はじめに
- 大学入試センター試験とは？
- 大学入試センター試験の評判
- センター試験批判の論点整理
- 共通1次の成立と共通1次批判
- センター試験批判各論
- センター試験廃止論の呼び水
- 新テスト構想は解決になるか？

# はじめに (1)

- 大学入試センター試験に関する議論の必要性
- 中教審高大接続答申 (H26.12.22) による新制度
  - 二つの共通試験の導入
    - 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)
    - 高等学校基礎学力テスト(仮称)
  - ← 大学入試センター試験の廃止
- 高大接続システム会議で議論 → 中間まとめ

## はじめに (2)

- 新テスト記述式問題に関する報道 (朝日H27.12.15)
  - 平成32 (2020) 年度から短い文字数で導入
  - 平成36 (2024) 年度から文字数の多い記述式
  - 採点に膨大な時間がかかる
    - 時期は12月以前を中心に検討
- 目的: これまでの「丸暗記」「一発勝負」を改める
- 考える力を測る ために記述式導入, 複数回実施

# はじめに (3)

- 大学入試センター試験廃止の目的, 理由, 根拠???
- **大学入試センター試験の総括?**
- 日本テスト学会第13回大会研究委員会企画公開シンポジウム感想
  - センター試験の議論は興味深かった
  - 現行のセンター, 個別試験の総括をしっかりとやるべき
  - センター試験で何がだめなのかテスト学会的に検証して公表してほしい, 等



**JART**  
The Japan Association for Research on Testing

関西大学本会場

日本テスト学会第13回大会研究委員会企画公開シンポジウム

## テスト学からみた 高大接続改革

平成27年9月11日(金) 13:00~16:00(受付開始12:15)

関西大学(第2学舎4号館内)「BIGホール100」  
(定員1,000名)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

**プログラム** 企画者・コーディネータ: 倉元 直樹 (東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授, 日本テスト学会理事)

**第1部 公開シンポジウム「テスト学からみた高大接続改革」** 関西大学にて開催

司会 倉元 直樹

「高大接続改革の教育的効果—全ての若者の夢や目標を花開かせるために—」  
話題提供 宮本久也 (東京都立西高等学校長, 全国高等学校長協会会長, 高大接続システム改革会議委員)

「高大接続改革の技術的基盤—テスト理論活用の観点から—」  
話題提供 南風原 朝和 (東京大学理事・副学長, 日本テスト学会理事, 高大接続システム改革会議委員)

指定討論 佐久間 淳一 (名古屋大学大学院文学研究科長)

パネルディスカッション

**第2部 座談会「校長、高大接続改革を語る」** 仙台サテライト会場から開催

司会 鈴木 道男

渡邊 幸雄 (宮城県仙台第二高等学校校長)

奈良 昌孝 (青森県立五所川原工業高等学校校長)

西嶋 潤一 (北海道清水高等学校校長)

このシンポジウムは  
関西大学を本会場とし、  
テレビ会議システムにて  
下記のサテライト会場と  
結びます。  
・東京サテライト会場  
・仙台サテライト会場

**Web 申込み方法**  
大会ホームページ <http://www2.kansai-u.ac.jp/jart2015/> にアクセスいただき、申込みページを開いて、必要事項をご記入ください。

**問合せ先**

→ 関西大学本会場 (関西大学第2学舎4号館内「BIGホール100」) 及び日本テスト学会第13回大会:  
● 大会事務局 [jart2015@cm.kansai-u.ac.jp](mailto:jart2015@cm.kansai-u.ac.jp) ● 大会ホームページ <http://www2.kansai-u.ac.jp/jart2015/>  
→ 公開シンポジウム企画 及び 仙台サテライト会場: 東北大学高度教養教育・学生支援機構事務局 [jart2015\\_sendai@ihe.tohoku.ac.jp](mailto:jart2015_sendai@ihe.tohoku.ac.jp)  
→ 東京サテライト会場 (東京工業大学本館 H121 教室): 前川眞一研究室 [mayekawa@hum.titech.ac.jp](mailto:mayekawa@hum.titech.ac.jp)  
→ 日本テスト学会: ● 学会事務局 [info1@jartest.jp](mailto:info1@jartest.jp) ● 学会ホームページ <http://www.jartest.jp/>

主催: 日本テスト学会  
後援: 東北大学高度教養教育・学生支援機構, 関西大学, 日本行動計量学会, 全国高等学校長協会, 国立大学協会, 公立大学協会, 日本私立大学団体連合会 他

# 大学入試センター試験とは (1)

- 独立行政法人大学入試センター法第13条1

大学に入学を志願する者の高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的として大学が共同して実施することとする試験・・・

- 大学入試センター試験の規模(平成27年度入試)

- 本試験実施日:平成27年1月17日(土), 18日(日)

- 志願者数:約55万9千名, 受験者数:約53万1千名

- 参加大学数:691大学(国立82, 公立84, 私立525), 161短大

# 大学入試センター試験とは (2)

- 大学入試センター試験の規模(平成27年度入試)(2)
  - 試験場数: 690試験場(学内試験場620, 学外試験場65, 他)
  - 試験室数: 約9,800試験室?, 監督者等数: 2~3万名?
  - 監督要領ページ数: 約 220ページ
- 大学入試センターの運営経費(平成26年度)
  - 予算: 約108億円(検定料約97億円, 成績提供・通知手数料約11億円)
  - 支出: 約117億円(試験実施経費約105億円)
  - 受験料: 3科目以上18,000円, 2科目以下12,000円,  
(成績通知希望の場合+800円)

# 大学入試センター試験とは (3): 出題教科・科目

- 初日出題教科(グループ)・科目数(平成26年度)
  - 「地理歴史」6科目, 「公民」4科目 (1 or 2科目受験)
  - 「国語」1科目
  - 「外国語」5科目(英語のみ「筆記」と「リスニング」, 別冊子有)
- 2日日出題教科(グループ)・科目数(平成26年度)
  - 「理科①」4科目
  - 「数学①」2科目
  - 「数学②」5科目(別冊子有)
  - 「理科②」4科目 (1 or 2科目受験)



# 大学入試センター試験とは (4): 沿革

- 昭和54(1979)年度: 共通第1次試験導入
- 昭和62(1987)年度: ア・ラ・カルト方式へ
- 昭和64(1989)年度: 理科の得点調整
- 平成2(1990)年度: 第1回 大学入試センター試験, 私大参加
- 平成9(1997)年度: 数学の科目間格差問題
- 平成14(2002)年度: 韓国語導入, 前年度の成績利用開始
- 平成16(2004)年度: 短大参加
- 平成18(2006)年度: 英語リスニング導入
- 平成24(2012)年度: 大規模トラブル 発生, 全国で再試験

# 大学入試センター試験の評判 (1)

- 中教審学士課程答申 (H20.12.24)
  - 高大接続テスト(仮称)の導入を提言
    - センター試験との関係は？
- 学士課程答申のセンター試験評価

「大学入試センター試験は、我が国全体として、入試の改善を推進する上で、大きな貢献をしてきたと言える (p.31)」 ← 大絶賛

# 大学入試センター試験の評判 (2)

- 高大接続テストの調査研究 (H22.9.30)

「(センター試験は)センター試験利用大学が個別に行う学力選抜の枠組みの中で行われる共通試験であって、教育上の高大接続のための学力把握を目的とするものではない」(p.14)」

- 年間複数回実施されていない
- 素点主義, 集団準拠型, 1点刻みの評価  
← テスト学的にどうなんでしょう???

# 大学入試センター試験の評判 (3)

- 教育再生実行本部第一次提言 (H25.4.8)
  - 自由民主党成長戦略に資するグローバル人材育成部会
  - 大学入試センター試験に言及なし
- 教育再生実行会議第四次提言 (H25.10.31)
  - 良質の問題提供, 入試の個性化・多様化を促進
  - 1点刻みの合否判定を助長
  - 志願先選択に直結する心理的圧迫
  - 運営負担が増大し, 限界

# センター試験批判の論点整理

- センター試験批判のフェイズ
  1. 大学入試, テスト全般に対する忌避
  2. 共通1次・センター試験共通の批判
  3. (共通1次ではなく)センター試験に対する批判
- 論点整理の重要性
  - 大学入試批判に関する思考の鑄型, ステレオタイプ
  - 共通1次批判の結果としてのセンター試験導入の歴史
    - ← 今後を考える上で重要ではないか？

# 共通1次の成立と共通1次批判 (1)

- 共通1次以前の大学入試問題の是正  
→ 共通1次導入へ
- 共通1次の目的
  - 難問奇問の出題 → 学習面での高大接続を
  - 調査書の高校間格差補正 → 調査書の代用
  - 学力検査への過度の依存 → 選抜資料の多元化
  - II期校コンプレックス → 試験日の統一

# 共通1次の成立と共通1次批判 (2)

- 共通1次制度の成立条件
  - マークシート方式, 国立大学協会主導, 自己採点制度
- 共通1次批判の観点
  - 大学の序列化と輪切り → 偏差値偏重, 受験産業介入
  - 過重負担, 私立大学の選抜との格差
  - 一発勝負化, 画一化 ← 一律5教科7科目
  - マークシート批判 → 記述力・創造力・考察力の測定に不適, 学生の主体性喪失, 学力低下...

# 共通1次の成立と共通1次批判 (3)

- 臨時教育審議会第1次答申 (S60.6.26) による提案
    - 共通1次に代えて国公立が利用できる **共通テスト導入**
  - 新しい共通テストにかかわる検討事項
    - 良質の試験問題再利用, マークシート方式の改善, 採点区分簡素化, 資格試験的な取扱い, 自己採点の廃止・得点通知, 総点主義によらない弾力的利用, 1科目利用も可, 実施時期・実施回数複数化, 短大の利用検討・・・
- 相当の混乱の末, **大学入試センター試験の誕生**

# センター試験批判の各論 (1)

- **潜在的な不満** → 大学入試批判の思考の鑄型  
大学入試は必要悪という見方  
受験生としての嫌な思いの経験 ← 圧倒的多数  
結果的に**現在の大学入試制度は常に批判的**
- センター試験で**測定する能力**への疑義
  - 基本的にはマークシート批判
  - **知識を測るもので思考力は測れない!** ← 本当?
  - スピードテストになっている

# センター試験批判の各論 (2)

- センター試験準備の **高校教育に対する悪影響**
  - 合否に効きすぎる
  - 1点刻み批判 → 段階評価, 資格試験
  - **受験テクニック**の習得で得点上がる
  - **選択科目の問題も**
- **公平性への疑義**の諸相
  - **得点調整**の問題 ← センター試験特有の問題も
  - 地域間格差

# センター試験批判の各論 (3)

- センター試験の **実施, 運営の負担**
  - 形式的厳密性の極致 ← 保護者の心理, ネット社会
  - センター試験3日間化の頓挫 → H24年度入試の混乱
  - 報われない監督者
- 大学入試 **日程問題**
  - 入試の多様化 → 大学入試の長期化
  - **高校の教育日程**の圧迫
- **大学入試制度変更自体の悪影響**

# センター試験廃止論の呼び水 (1)

- **絶賛から廃止論へ**の急展開  
原因は？ ← 平成24年度入試の混乱？
- 平成24年度大学入試センター試験に関する検証委員会報告書 (H24.4.26)
  - 地理歴史・公民で自由に2科目選択可能に
    - 地理歴史と公民を分冊化
    - 試験監督の**指示誤り**, **配付トラブル**が続出
  - 気仙沼臨時会場へのリスニング機器配送ミスも

# センター試験廃止論の呼び水 (2)

- 原因: 様々な要因が複雑に作用
- 総括:

「科目選択範囲の拡大という制度変更そのものに対しては、・・・意義があったとの評価の声も・・・(p.12)」

「大きな制度変更に見合うだけの準備期間が足りなかった・・・当初より関係者の中に複雑となった試験方法に対する懸念の声があった(p.12)」

「センター試験の複雑化は限界(p.19)」

# センター試験廃止論の呼び水 (3)

- 平成24年度問題の遠因: 角を矯めて牛を殺す
  - 国立大学の入試改革 (2000) : 5教科7科目の受験を促す
    - 5教科: 地理歴史・公民を合わせて1教科
    - 7科目: 数学を2科目と数える → 共通1次時代よりは1科目減
  - 自由に2科目を選択させるための時間割変更
    - 共通1次: 全員が2科目 → 120分で2科目
    - センター試験: ア・ラ・カルト
      - 1科目選択者と2科目選択者の混在
- ← センター試験制度が 複雑さの極み へ

# センター試験廃止論の呼び水 (4)

## • 教訓

### • 大学入試は妥協の芸術

• 部分の整合性への固執 → 全体の不適合, 制度疲労

## • センター試験批判 論点のすり替え → 廃止論

• センター試験の大規模ミス → 潜在的不満の顕在化

• 平成24年度問題の本質は実施面での 複雑性

→ センター試験で 測定している能力の疑義へ

## • センター試験廃止は本当に必要(or 可能)なのか?

# 新テスト構想は解決になるか？ (1)

- 大学入試制度批判：目覚めることのない悪夢
  - 大学入試制度の理念：相互矛盾の塊
  - 現制度に対する批判 → 新制度への期待
  - 新制度 = 新テスト構想 という図式
- 新制度の実現は何をもたらすか？
  - 新制度は実現したとたんに現制度となる
  - 新たな批判の論点 → 現制度批判へ転化
  - 最近の事例：センター試験へのリスニングテストの導入

# 新テスト構想は解決になるか？ (2)

- 田中寛一の入試改革 (江口, 2010)
  - 中学入試にメンタルテスト導入を提唱
  - 学科試験は知識を測るが, メンタルテストは知能を測る
- 経済同友会 (1984) の入試改革案 (佐々木, 1984)
  - 共通1次は国語, 数学に限定, 年3~4回実施
  - 私立大学はこれを利用
  - 外国語は4技能, 英検, TOEFLの活用を
  - 社会科, 理科は2次試験で

# 新テスト構想は解決になるか？ (3)

- 新テスト構想に対して予想される批判 (1)
  - 測定される能力への疑義
  - 新テスト準備の高校教育に対する悪影響
  - 公平性への疑義
  - 実施, 運営の負担
- 新テスト構想に対して予想される批判 (2)
  - 日程問題
  - 制度変更自体の悪影響
  - 潜在的論点の怖さ
- テストでできることの限界は？

# 新テスト構想は解決になるか？ (4)

- 大学入試改革論議の陥穽
  - 理念からの議論 → 収束しないことが予想される
- 出口から見た議論の必要性
  - 改革の結果からの影響を出発点として議論する必要
- 大改革による混乱は最終的には収束する
  - 昭和2年度, 昭和62年度, 平成24年度は…
  - それでも最大の被害者は？
- 本シンポジウムをセンター試験総括の端緒に

ご清聴

ありがとうございます

ございました